

学習内容報告書 フォーマット

学校名	世田谷区立用賀中学校
授業者	秦暢宏、河野康子、田中靖之、寺川泰葉、鈴木仁美、谷口宏、田中一博

1. 単元計画

実施した活動内容に基づきご記入ください。

1-1. 単元名

環境について学ぶ

1-2. 学年

1 学年

1-3. 教科（単元を実施する教科を全てお書きください）

総合

1-4. 単元の概要

環境破壊が叫ばれる現在、様々な環境について知り「持続可能な社会」について自ら学習し、課題を見つけ考えることができるように生徒に学ばせる。
--

1-5. 単元設定の理由・ねらい

この社会には様々な環境があるが、都会に住む生徒たちにとって一番遠いのが海洋である。最近海水浴も日焼けが嫌われ下火になりつつあり、海洋環境に関する興味関心の低下がみられる。 このため、本校では生徒たちが一番入りやすい「食」という観点から海洋環境について学ぶようにした。
--

1-6. 育みたい資質や能力、態度

専門家の講話を積極的に聞き、それをきっかけに自分の問題としてとらえ、自ら課題を見出し、解決していかうとする生徒を育成する。

1-7. 単元の展開（全 6 時間）

時数	学習活動・主な内容	教師の指導 / 主な評価 外部連携 / 使用教材等
1	<ul style="list-style-type: none"> 出汁、鰹節や昆布について知っていることを書き出し整理をする。 次の時間の予告 質問したいことをまとめておく。 	<ul style="list-style-type: none"> 指導：生徒の知識を引き出す。 評価：積極的に取り組めたか。

2	<p>1 講話</p> <p>2 体験 鰹節の削り体験 出汁の試飲</p> <p>3 見学 実物大の昆布の種類の説明 カツオの模型による鰹節の部位による違いについての説明</p>	<p>外部連携：鰹節会社にんべんの講師の皆さま</p> <p>教材：パワーポイント、パンフレット 鰹節、削り器、カツオの模型、各種昆布 出汁（昆布、鰹節出汁）</p>
3	<ul style="list-style-type: none"> ・まとめ 学んだことをまとめる ・お礼状の作成 	<ul style="list-style-type: none"> ・指導：鰹節の作成の大変さと日本の海洋環境について理解が深まるように指導する。 目上の方へのお礼状の書き方
4	<ul style="list-style-type: none"> ・ワカメについて知っていることを書き出し整理をする。 ・次の時間の予告 質問したいことをまとめておく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・指導：生徒の知識を引き出す。 評価：積極的に取り組めたか。
5	<p>1 講話</p> <p>2 体験 生アワカメを触り感触を知る 養殖用網を持ち重さを確かめ、ワカメ 養殖業者の方々の苦勞を知る</p>	<p>外部連携：ワカメの食品会社の講師の皆さま</p> <p>教材：パワーポイント、パンフレット 加工前の生ワカメ（メカブを含む） ワカメ養殖用網、昆布</p>
6	<ul style="list-style-type: none"> ・まとめ 学んだことをまとめる 2回の講演会で学んだことをまとめる。 職業についてもどのようなことがわかったか まとめる。 ・お礼状の作成 	<ul style="list-style-type: none"> ・指導：ワカメ養殖の大変さと日本の漁業関係者の高齢化問題、東日本大震災の復興について理解が深まるように指導する。 また、鰹節の講義と合わせ日本の食の豊かさと海洋資源の保全について考えられるようにする。 目上の方へのお礼状の書き方

2. 学習活動の実際

実施した単元中のキーとなるような時間（導入の時間・主となる活動の時間・まとめの時間など）の学習内容をご記入ください。また、複数の時間についてご記入いただける場合には、この項目をコピーして複数記入していただいて構いません。

2-1. 単元における位置づけ

単元 時間中の 時間目

※例：単元 10 時間中の 2 時間目 / 単元 15 時間中の 4, 5 時間目

2-2. 本時の目標

・わかめ製造の会社の方々のお話を聞き、ワカメについて学ぶとともに、養殖業者の方々の仕事内容について理解を深め、職業に対しての知識を得る。

2-3. 本時の展開

主な学習活動 / 反応	教師の指導・支援 / 評価の視点（方法）
<ul style="list-style-type: none">・藻類についての基礎知識 メカブを触らせる。・ワカメが緑色になる理由 湯通しを見せ、色が変わるところを見る。・DVD でワカメの養殖の様子を学ぶ。 厳冬の頃にワカメを収穫する・収穫したままの大きさのワカメを見たり、触ったりする。	<ul style="list-style-type: none">・発言を促す・養殖業者や後継ぎが減っている理由を考える。・生ワカメについて理解を深める。

3. 今回の活動の自己評価

・外部講師の話を積極的に聞けたか。
・ワカメの養殖業者の方々への職業に対して理解が深まったか。

4. 今後の課題

・藻類については 1 年生理科で学ぶが、昔に比べ扱い量が少ない。そのため、深く理解をさせるために理科の授業でのフォローが必要。

5. 本学習内容報告書活用にあたっての留意点

・外部講師との折衝。

※実施した単元ごとに作成してください。

※写真、画像、図表等の使用可。必要に応じて記入欄やページ数を増やしても構いません。

※基本レイアウト

フォント：MS 明朝、10.5 ポイント / マージン：上下端 20mm、左右端 16mm